

造形デザイン領域演習 I 評価ルーブリック

評価項目	S・A	B	C	D
タペストリー技法を使うことができる。(C-2)	広く興味関心を持ち、自ら具体的な目標を設定して、タペストリー技法を使うことができる。	広く興味関心を持ち、タペストリー技法を使うことができる。	タペストリー技法を使うことができる。	タペストリー技法を使うことができない。
手織り機を使って織物を制作することができる。(C-2, D)	広く興味関心を持ち、積極的に自ら調べるなど、手織り機を使って織物を制作することができる。	広く興味関心を持ち、手織り機を使って織物を制作することができる。	手織り機を使って織物を制作することができる。	手織り機を使って織物を制作することができない。
織物設計で、使用する糸の長さの計算ができる。(D)	指導教員の助言を参考に、自ら考え、試行錯誤を何度も繰り返しながら、織物設計で、使用する糸の長さの計算ができる。	試行錯誤を繰り返しながら、織物設計で、使用する糸の長さの計算ができる。	織物設計で、使用する糸の長さの計算ができる。	織物設計で、使用する糸の長さの計算ができない。
セラミックの石膏型による反復生産の手法を理解し、回転体による石膏型を作ることができる(C-2)	石膏型による反復生産の手法を深く理解し、回転体による石膏型を高い完成度で作ることができる。	石膏型による反復生産の手法を理解し、回転体による石膏型制作を積極的に実践することができる。	石膏型による反復生産の手法を理解し、回転体による石膏型を作ることができる。	石膏型による反復生産の手法を十分理解できず、回転体による石膏型を作ることができない。
これからの食生活を見据えて食器をデザインし、反復生産した作品を制作できる(D)	食と器の関係を深く考察し、反復生産に適した形状の作品を制作意図が伝わるように美しく制作できる。	食と器の関係を考察し、反復生産に適した形状の作品を美しく制作できる。	食と器の関係を考察し、反復生産に適した形状の作品を制作できる。	食と器の関係を考察し、反復生産に適した形状の作品が制作できない。
自己の作品について他者にわかりやすく伝えることができる。(D)	発表で熱意や思いを込めて聴衆が内容をよく理解できる発表をすることができる。	発表で、内容が聴衆に伝わるように発表することができる。	発表することができる。	成果を発表をすることができない。